



## 海外派遣で感じたこと

帰国報告書は市のホームページに掲載しています▶



うえだ あつし  
**上田 真** (竜王中学校 2年)

学校では、誰かが失敗しても冷やかしたりせずに「大丈夫。もう一度やってみよう」と励ましている光景をよく見ました。みんなが当たり前に協力して、課題を乗り越えようとしているのが素晴らしいと思いました。そして、みんな僕が前からここにいたかのように接してくれたので友だちもたくさんできました。僕がオーストラリアで学んだものを例えるなら、学習したことは金で、優しさはダイヤモンド。そんな宝物がたくさん入った宝箱を持って帰ったと思っています。この宝物を大事にして、他人に対する優しさや学習の意欲を身に付けたいと思います。将来は海外に関係する仕事がしたいです。



いけだ たまき  
**池田 環希** (高千帆中学校 3年)

自分からフレンドリーに話しかけるとみんなフレンドリーに話してくれました。これはきっとどこの

国でも同じで、コミュニケーションには笑顔とリアクションが大事だと分かりました。学校は校則がかなり緩いのにきちんとまとまっていて驚きました。決まり通りではなく、自分で判断しなければならないので、自主性や判断力、社会性が身についているんだなと思いました。ホストファミリーはとても仲の良い家族で、色々な場所へ連れて行ってもらい、チェスや折り紙を教え合って遊んだり、バーベキューをしたりしました。私はオーストラリアの景色が、食べ物が、モートンベイの人々が大好きです！



ほしの ひかり  
**星野 光璃** (埴生中学校 3年)

学校ではたくさんの生徒が日本語で話しかけてくれました。異国で私の母国語を勉強し、それを使って話してくれることがとても嬉しかったし、親近感が湧いてすぐに仲良くなれました。ほとんどの生徒がピアスをしていて、テーブルを囲むように好きな場所に座って授業を受けます。授業中に何かを食べていることも珍しくないし、野外活動も多く、日本の学校とは異なることばかりでした。最後の夜、バディと「Last Hug」と言って長くハグをしたときは自然と涙が溢れました。この派遣を通して人は国を越えても繋がることができる実感しました。この経験をこれから的人生に活かしていきたいです。



かじい りこ  
**梶井 璃子** (小野田中学校 2年)

日本の写真を見せたら、バディは興味津々で色々質問をしてくれました。日本に行ってみたいとも言ってくれて嬉しかったです。学校ではランチタイムが2回あり、持ってきたランチを2回に分けて食べました。なんと私のランチには人参が丸ごと1本入っていた日も！日本の栄養バランスが考えられた給食はすごいなと思いました。ホストファミリーはいつも私を気遣ってくれました。ゴールドコーストで手を引いてくれたバディの優しさに心が温まり、キックボードで一緒に見に行った海は輝いて見えました。びっくりすることもあったけど、異文化を知ることができてよかったです。もっと海外について知りたくなりました。



きぬがわ うりん  
**衣川 初凜** (厚狭中学校 2年)

初めは緊張してあまり喋れず、樂しむべきところで遠慮しすぎてしまつたけど、みんなが日本語でたくさん話しかけてくれて嬉しかったです。私の名前を覚えて、「Urin！」とたくさん呼んでくれたことで、なんだか自分の名前がもっと好きになりました。学校は自由度が高く、アクセサリーやマイクもOKなので、自分らしさを表現できたり、自分が好きな自分でいられることがいいな、と思いました。ホストファミリーは、色々な場所へ連れて行ってくれました。出かけた先も楽しかったけど、車の中や家の中でみんなと話したりゲームをしたりして過ごした時間も、とてもいい思い出です。



みと なおき  
**三戸 尚己** (厚陽中学校 2年)

オーストラリアの人は食べる回数や量が多く、スーパーも規模が大きかったです。ホストファミリーとは一緒に廻を作りました。飛ばすときに風がなく、みんなで走って浮かせたりして大変だったけど、日本の文化を楽しく伝えられたと思います。また、ホストファミリーからハカというニュージーランドの伝統的なダンスを教えてもらいました。日本とは異なる暮らし方や文化があり、一つひとつの出会いが新鮮で特別なものでした。後悔しているのは準備不足だったこと。事前にもっとできることがあったはずです。これからは大事なときだけ頑張るのではなく、準備の段階からしっかりとしていきたいです。